

アウトリーチ

通信



第6号
2007年3月10日発行
年4回発行
神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター
〒662-8505
西宮市岡田山4-1
電話・FAX: 0798-51-8584

メッセージ

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ教育アドヴァイザー

仲道 郁代



撮影：谷古宇正彦

神戸女学院での、アウトリーチに関する取り組みについて、津上先生からご案内をいただいていたはや二年となりました。以来、アウトリーチ通信を見し、講義のため学校へ伺わせていただく中で、その取り組みの充実に感銘を受けています。

私自身、音楽の楽しさを沢山の方々に知って、感じていただきたいと、少しずつではありますが、様々な試みをしてまいりました。また、財団法人地域創造に関わりながら、地域での芸術文化活動のあり方について、見聞きし、これからの可能性について考えることも多くなってまいりました。

現在、私が感じることは、

一、今後、アウトリーチ活動の重要性が増すであろうこと

不安定極まりない社会において、音楽が、芸術が果たす役割は、計り知れない。

また、必要としている人達、場面は、多様化するであろう。そのニーズにどのように、どうやって対応していくことができるのか。教育の場で体系的に考えていくことが急務である。

二、音楽を表現の手段とする人達の、

活動の場の拡大が必要であること。何のために、演奏するのか、勉強しているのかということ、自己認識して、より有意義な学生生活を送ることが出来るように皆で支えあつていかななくてはならない。

音楽に触れる場は、コンサート会場に限ることではないのです。病院で、学校で、地域の街角で、音楽の輪が広まっていくことの大切さ、素晴らしさを、神戸女学院の学生の皆さんに是非知っていただきたいと思えます。

人間には、三つの欲求があるといえます。これらが、なんらかの形で満たされないと人は不幸であるということです。

一、自己実現

何かを成しえたという実感をもつこと

二、自己表現

自分を表現したいということ

三、自己向上

よりよくあろうとすること

アウトリーチの活動はこれらを実現させてくれる貴重な活動です。

神戸女学院の取り組みは、全国の中でも、先駆けとして、注目を浴び、また、期待されるところだと思つています。

今後、益々の活躍発展を心からお祈りしていると同時に、可能性の探求を私も続けていきたいと思つています。



仲道郁代 デビュー以来二十二年にわたって第一線のピアニストとして内外で活躍。ベートーヴェン全曲録音に取り組みほか十年間にわたる、芝居と音楽を組み合わせた大人のための「仲道郁代の音楽学校」「仲道郁代のコメンタリー遊ばせワシツク」を開催、また、ピアノとスライドでつづる子どものための「星のどうぶつたち」「光のこどもたち」を七年、継続・発展させている。

仲道郁代公式ホームページ
<http://www.ikuvo-nakamichi.com>

子どものための

コンサート・シリーズ

第十八回 クリスマス・コンサート



十二月十六日（土）、本学講堂にて「子どものためのクリスマス・コンサート」（子どものためのコンサート・シリーズ第十六回）を開催しました（第一部・十一時、第二部・十六時、来場者数一二七七名）。

出演は、「音楽によるアウトリーチ」既習生を含む八名。ピアノや打楽器、フルート、オルガンといった多彩な楽器に歌も加わり、ソロ演奏やアンサンブルでクリスマスにふさわしい華やかなプログラムをお届けしました（声

楽・南香代子／ピアノ・河戸茉悠、伊規須彩花、多田安希子、谷村早穂子／打楽器・田中麻衣子／フルート・増田みのり／オルガン・川勝さちこ。

オルガンでワインライト作曲《目覚めよ》（ローズゾーン編）が高らかに奏でられ、一気に客席をクリスマスの世界へ。その後、M・トーマ／R・ウエルズ《クリスマス・ソング》、J・S・ピアポント《ジングル・ベル》などのクリスマス曲の他、J・S・バッハ《主よ 人の望みの 喜びよ》、W・A・モーツァルト《フルート協奏曲



二長調》、M・シュミット《ガーナイア》などそれぞれの楽器の魅力味わえるクラシック曲を演奏しました。

リボンを使ったリズム遊びでは、初めて会場で出会ったお友達と一緒に、色々な種類のリズムを《ジングル・ベル》にのせて楽しみました。子どもたちは、リボンの色ごとに違うリズムを

打ち、音楽に合わせて動いたり止まったりと大忙し。そのほかに讚美歌メドレーを歌うなど、お客様にもコンサートに参加していただき、会場が一つとなってコンサートを盛り上げました。



チェレスタ体験



フルート体験

お客様からは、「素敵なクリスマス会の思い出になった」、「子どもたちはクリスマスらしい曲を聴き、楽器にも触れ、大満足だった」、「生の音楽の良さを子どもが感じられるいい機会だ」といったお声をいただきました。コンサート後の出演者には安堵と喜びの表情がみてとれ、会場を後にされるお客様との交流を楽しんでいました。

出演者は、たくさんのお客様との触れ合いを通じて学んだことが多く、また、会場の温かい雰囲気やお客様の反応を感じ取ることができて、今後演奏活動が続けていく大きなエネルギーともなったようです。出演者、お客様、そしてコンサートを支えてくれた裏方のスタッフ全員が一体となって、今回のコンサートを作りあげることができました。今後も地域の皆様に喜ばれる子どものためのコンサートをお贈りしたいと思えます。（寺澤彩・記）



出演者、スタッフ一同

アウトリーチ実習報告

神戸市立中央市民病院

十一月二十九日（水）、神戸市立中央市民病院（神戸市立中央区港島中町四丁目六番地）にて院内コンサートを行いました（声楽・高林保子、海老原ゆかり／フルート・片岡朗子／ヴァイオリン・東瑛子／ピアノ・生駒直美、今中百合）。



前回（八月三日）のコンサートで好評を頂いていたので、今回はヴァイオリン専攻の三回生の協力を得て編成を変え、より楽しんでいただけるよう工夫しました。プログラムは、二〇〇七年に山田耕筰が生誕百二十周年を迎えるので《からたちの花》《赤とんぼ》、そしてクラシックの名曲《タイスの瞑想曲》《ガヴォット》、皆様よくご存知の《上を向いて歩こう》など親しみやすい曲を中心にしました。

会場はほぼ満席で、寝たきりの患者さんや点滴をされたままの患者さん

も来て下さいました。このようなコンサート経験がまだあまりない三回生はお話などで緊張した場面もあったようですが、幼稚園や小学校での実習とは違い、みなさんに見守られているような感じを持ちながら演奏する事ができました。

一緒に歌うコーナーでは皆さん元気に笑顔で歌ってくださいました。演奏会終了後も皆様笑顔で帰られて、心を込めて演奏すれば自分たちの演奏でも、音楽の楽しさを伝えることができるのだと感じたひとときでした。



神戸市立中央病院の皆様、良い勉強の機会をいただきありがとうございます（高林保子・記）

神戸医療センター



十二月十四日（木）、神戸医療センター（神戸市須磨区西落合三丁目一番号）にて、クリスマス・コンサートを行いました（声楽・谷田奈央／フルート・今井さつき／ピアノ・西村遥子、谷優似子）。

昨年八月に続いて二度目のコンサートである今回は、讃美歌《諸人こそりて》《牧人ひつじを》《きよしこの夜》《冬景色》などクリスマスにちなんだ曲は勿論の事、《くるみ割り人形》《ハバネラ》《冬景色》などクラシックの名曲も取り入れたプログラムとしました。

コンサートが始まると多くの方が集まって来てくださり、讃美歌集を持参して下さった方もありました。演奏会終了後には多くの方が声をかけてくださり、「寿命が十年延びた」と言ってくくださった方もいらっしゃいました。



今回のコンサートでは、今までアウトリーチ・センターのスタッフに頼っていた先方との事務連絡も自分たちで責任を持って行いました。プログラムの版下作りなども思った以上に大変でしたが、その分、終わった後の達成感も大きく、またこの春の卒業後はこの授業の履修生としてではなく、自分自身で音楽活動の場を探すことになりましたので、そのためのよい勉強になりました。（谷田奈央・記）



十二月十八日（月）、雲雀丘学園小学校（兵庫県宝塚市雲雀丘四丁目二番一号、岩崎優校長）にてフルートのアンサンブルコンサートを行いました（フルート・山上綾華、上原梨絵、今井さつき／ピアノ・生駒直美）。

アンサンブルの良さをわかってもらう為に《フルート吹きの休日》《小さな世界》《星に願いを》を、フルートを一本ずつ増やしながら演奏したり、後ろを向いてもらい二本、三本に楽器が増えたら手を挙げてもらうクイズ形式にしたり、リコーダーと一緒に合奏するコーナーを設ける等、楽しく学べるプログラム作りを心がけました。

アンサンブル、フルートの説明、リコーダーとの共演など、四十五分の授業の間、「反応を返してくれるだろうか」「演奏を静かに聞いてくれるかどうか」など心配しましたが、フルートに対する質問も多数出て盛り上がり、ピッコロ、アルトフルート、バスフルートを見せた時は、子どもたちの目がキラキラして楽しそうに笑ってくれました。



ただ演奏するだけでなく、フルートのアウトリーチとして特化したプログラムを考えて実施したことによつ

て、自分たちのオリジナルのプログラムを開拓することができました。今後は、演奏の時間の配分等で改善していきたいと思います。

雲雀丘学園小学校の皆様、これから活動に役立つ良い機会となりました。ありがとうございました。

（山上綾華・記）



一月三十一日（水）、西宮市立甲陽園小学校（西宮市甲陽園本庄町一番七十二号、梅岡己則校長）にて、「クラシックの曲を楽しくきこう」と題した演奏を行いました（フルート・上原梨絵、山上綾華、片岡朗子／ピアノ・白坂亜紀）。

ソロ、デュオ、トリオと様々な形でフルートの魅力を伝えるために、《フルート吹きの休日》などフルートの特徴を活かしたもので、モーツァルトのオペラ『フィガロの結婚』より《もう飛ばまいぞ、この蝶々》、またピアノソロのショパン《子犬のワルツ》も交

えるなど、子どもたちを飽きさせないプログラムを目指しました。また、小学生に「指揮者」の役割をしてもらい、一緒に音楽を創るという挑戦もしてみました。

演奏終了後、予想外にアンコールのリクエストをいただき、《さんぽ》《星に願いを》を演奏しました。出演した履修生からは、「小学三年生への実習は初めてだったので、子ども達の反応がよく、とても演奏しやすかったです」「アンコールの曲を準備していなかったのですが、今後は前もって用意しておきたいです」など、今後の課題も明確になった貴重なコンサートでした。

事前の準備や、演奏者の送迎をしてくださったPTAのみなさま、すてきな機会をどうもありがとうございました。

（絹田朋子・記）



一緒に動きましょう

十一月十日(金)、十七日(金)、十一月一日(金)の三日間、兵庫県立こやの里養護学校(片村文系校長、音楽教諭・佐藤啓子先生、香春恵美先生)小学部にて、養護学校プロジェクトを行いました。この実習では、授業に組み込まれているリトミツクのコーナー(十分)を担当し、授業の最後に一曲演奏を披露するという形で取り組みました(十日:オルガン・川勝さちこ、ピアノ・藤村真代、声楽・高林保子/十七日:川勝さちこ、藤村真代、ピアノ・高橋紗代、フルート・山上綾華/十二月一日:藤村真代、ピアノ・西村遥子、白坂亜紀、高林保子、声楽・谷田奈央)。

実習初日は、授業だけでなく各クラスの朝の会から参加させていただきました。事前に子どもたちの様子を見ることができたので、思ったよりスムーズに授業をすることができました。リトミツクのテーマは「呼吸を合わせて一緒に動く」。動物の動きを題材としました。まず、動きの特徴の捉えやすい動物を選び、その動きに合わせて曲を自分たちで作曲して準備しました。

第一回目

の題材は「ウサギ」と「ゴリラ」。まず、ウサギの絵を見せ、子どもたちに何の動物かを問いかけます。子どもたちからは「うさぎー!」と元気な答えが返ってきました。それから、ウサギの動きの特徴であるジャンプのお手本を見せ、その後子どもたちと一緒に音楽にのってジャンプ。音楽が終わったときに丁度向かい合った人と「こんにちは」の挨拶をして、一連の動きが終了します。同じ方法で今度は「ゴリラ」の動作をみんなで音楽に合わせて真似ました。こちらは音楽のテンポに合わせて、速く動いたり、遅く動いたり、という点



何の動物かな?

を新たに加え、みんなで歌いながら動き回りました。最後にピアノ演奏でモーツァルト《ファンタジー》を披露しました。初めての実習はあつという間に終わってしまいました。思った以上に子どもたちの反応があり、確かな手ごたえを感じました。

第二回の実習では、新たに「鳥」を加え、両手を広げ自由に動くことによつて、鳥が空を飛んでいる動きを表現してみました。自由にイメージして動いてほしかったため、事前にお手本を見せることをしなかつたのですが、それが逆に難しかったようです。そして、最後にフルート独奏で松村崇継《アイヌ》をお届けしました。



フルート独奏

第三回は「ぞう」を加え、盛りだくさんの内容になりました。一、二回目の反省点を生かすことで、よりスムーズに授業を行うことができました。

この日はクリスマスマスが近かったので、ピアノ・ピント《シングル・ベル》に、鈴、タンバリン、カスタネットを加えて演奏しました。三回目となると、みんな積極的に動いてくれて、とても楽しい雰囲気です。授業を終えることができました。

この実習に参加して感じたことは、子どもたちの様々な症状についてもつと勉強することが必要だということです。子どもによつては自分から想像して動くのが難しいこと、また出来る動作が限られることなど、非常に多くの個性があることを知りました。また、養護学校では色々な場面で音楽が使われているのを見て、その多様性と可能性に驚かされることも多々ありました。日頃大学で勉強しているのは違う面からアプローチすることによつて、自分の音楽への関わり方を改めて考えさせられました。色々反省点もあります。子どもたちとの触れ合いは楽しく、コミュニケーションが取れた時の喜びは本当に大きなものです。

二月にあと三回の実習を控えています。今からとても楽しみです。これまでの経験を生かし、よりよいプログラムを実施していきたいと思っています。

(川勝さちこ・記)



虹の色を覚えましょう

新たな長期プロジェクトの一つ、「ひよこプロジェクト」が開始しました。本プロジェクトは、英語の歌とリズムで、子どもたちに外国語の響きとリズムに慣れ親しんでもらおうというもので、英文学科と音楽学科の学生が共同で行います。今年度は英文学科教職課程履修生（四回生）七名、音楽学科「音楽によるアウトリーチ」履修生（三回生）二名、二回生一名の計十名が参加しました。

昨年九月二十日（水）に、田村朋子講師によるリズムの講習会を実施。その後、原田園子英文学科教授の指導のもと、実施プログラムを綿密に計画し、十一月十五日（水）、西宮市

立子育で総合センター附属あおぞら幼稚園（所長・古岡敏之氏／園長・家門淑恵氏）にて、二回の実習（各四十分）を行いました。

プログラムはまず、英語によるご挨拶と自己紹介でスタート。続いて、虹の歌「Rainbow Song」をもとに、色の英語名を指導しました。その際、英語と色が一致するように、色紙カードや虹の絵を用いるなどの工夫を施しました。各自色とりどりのスカarfを振りつつピアノ伴奏ののって歌いながら踊る場面で、園児たちは一段と元気！学生は、要所所で英語の発音や歌詞を指導しました。学生も園児も、前半は少し緊張気味でしたが、後半にはリラックスして和やかな雰囲気のうちを終えることができました。



色とりどりのスカarfを使って

終了後には、「英語を習いたくなつた！」「ピアノの音が美しかった」などの嬉しい言葉ももらいました。

今後の発展が楽しみです。プロジェクトです。初めての試みにもかかわらず快くご協力下さったあおぞら幼稚園の皆様にご礼申し上げます。

（松川峰子・記）



第1回ひよこプロジェクト参加者一同

♪歌って英語と仲良し



神戸女学院大2学部協力

学生が園児に「授業」西宮市立立子育「プロジェクト」があり、文学部から総合センター附属あおぞら幼稚園へ、神戸女学院大へ出張した。

（同市）の高養学部2年生、高養学部3年の2人と英語の学生が先生を務める。文学科4年の7人が同課を授業。があり、園児が歌、訪れ、2回に分けて年長組や踊りを楽しみなが、英語の37人を指導。音楽学科の学生はピアノ伴奏で、英文学科の学生が園児と2階に「チ」と呼ばれ、学外で活動。7色のスカarfを振りながら踊る高養学部の取り組み。ら、「インボソング」昨年度、文学部科学者の「特」を英語で歌った。

同大文学部の原田園子教授は「色ある大教育支援プロジェクト」に採択された。取り、授は、子どもたちが違和感組みのつに、歌、踊りでなく英語と触れ合えるよう奨励を指導する。「さよなら」になれば「話していた。

吹奏楽プロジェクト

吹奏楽プロジェクトは自分の専門分野の知識を生かして中学校の部活動のサポートを行うもので、昨年九月二十三日から月に二、三回のペースで西宮市立深津中学校（西宮市深津町六番七十五号、足立隆夫校長、音楽教諭・柳井恵子先生）にて演奏指導を行っています。具体的には、フルートパートを受け持つ二人の生徒の基礎練習や本番が近い曲の指導などを行っています。

今までマンツーマンでしか指導をしたことのなかった私はグループ

レッスンの難しさに困惑しましたが、生徒さんたちがとてもやる気に満ちていて、生徒さんたちのほうから進んで「ここはどう吹けばよいのか?」「もつとよい音を鳴らすにはどうしたらよいのか?」など質問を投げかけてきてくれたので、中学生の「もつと上手になりたい!」という熱心な思いに私も負けていられない、という気持ちになりました。回数を重ねる毎に生徒さんとも打ち解け、徐々に指導のコツをつかむことが出来ました。

「クラブ活動」という学内活動の中でのご指導ということで、生徒達の先輩・後輩関係や他の学校行事との兼ね合いなど、なかなか難しい点もあります。しかし、この活動を通して人に教えるということは自分自身の演奏を見直すきっかけにもなると強く感じました。教えることにより私自身もたくさん学ぶことを生徒から学びました。なお、今年度はプロジェクト開始時にお申込頂いた中学校の全てにお伺いすることができず、申し訳ありません。今後も出来る限りの体勢で少しずつ進めてまいりますので、よろしくお願いたします。(片岡朗子・記)

ゲスト・ティーチャー

松原美保先生



十二月四日、十一日(月)の両日、ゲスト・ティーチャーに松原美保先生(宝塚市立すみれが丘小学校音楽教諭)をお迎えし、小学生にアウトリーチする際のプログラムの組み方についてご指導いただきました。履修生(三回生)は、グループ毎に自分たちで考えたプログラム案を披露しました。「小学生向けだからといって、小学生皆が知っているような曲ばかりを演奏するのではなく、少し難

しいだろうと思われる曲でも、演奏者がその曲の魅力を引き出す事が出来るならば、聴衆にも伝わります」など、実際に小学校の現場に立たれている先生からのアドヴァイスはとても貴重でした。また、学生からは「アウトリーチがいかに難しいものであるかを教えてくださったと同時に、子ども達をひきつける方法を見つけるヒントをいただきました」「私たちは小学生の目線で考えてみようとしたのですが、実際の小学生の様子をよく知らないで、やはり偏ってしまっていたようです」「現場に立つ為の重要なコミュニケーションになったと思います」などの声が聞かれました。

(絹田朋子・記)

牧野淳子先生

十二月十八日(月)、ゲスト・ティーチャーに牧野淳子先生(京都市立芸術大学、亀岡市交流活動センター非常勤講師。竹に関わる音楽の文化の研究を行う。各地で創造的な音楽表現のワークショップなども実施する。関西音楽教育研究会代表)をお迎えしました。



先生は音楽ゲームを通し、聴衆と一緒に音楽を作っていくことのできるアイデアをたくさん教えてくださいました。トーンチャイムや竹楽器を使った音楽作りもご紹介くださり、新しい発見の連続でした。

学生からは、「身近な物を楽器にして豊かな音色をつくり、親しみを持つ事、それをアウトリーチの活動に取り入れる事が大切であると認識しました」「牧野先生の人柄に惹かれました。お話、説明の仕方や間の取り方など、吸い込まれる物があり、いつの間にか私たちも一所懸命でした」などの声が聞かれました。(絹田朋子・記)

講演会シリーズ

仲道郁代氏

「音楽を感じよう」

「伝える」

十二月八日（金）、「神戸女学院大学音楽学部アウトリーチ教育アドヴァイザー」にお迎えしたピアニストの仲道郁代氏の講演会を行いました。昨年度に引き続き二回目の講演会となった今回のテーマは、「ピアノで遊ぶ」というものでした。

そのテーマの通り、ただじっと座ってお話を聞く講演会ではなく、参加者も五感を存分に使い、体も動かす事の出来るとても楽しいものでした。田中カレン作曲の《光のこどもたち》を使いながら、香り、風景、気温、天気などを具体的に想像し、音楽から受けることの出来る感覚とはどういったものかを、楽しく、しかしとても深く掘り下げて、イメージーションを膨らませてくださいました。

また、講演会の後にディスカッションも行いました。そこでは、将来音楽を使って仕事をしていく為の方法や、調性のお話、仲道さんご自身がベート

ーヴェン全曲演奏会を通して感じていらつしやる事など、たくさんのお話いただきました。参加者からは「普段、曲のタイトルや標題、テーマにとらわれがちですが、講演会中に周りの人を見回すと、曲そのもののイメージで動いている人も居て勉強になりました」「音楽家というのは、自分のイメージしていることを人に押し付けるのではなく、自分の演奏を通じてたくさんの人にイメージ作りのきっかけを与える存在だと思いました」「『誰も完成したと思つて演奏している人はいない。どんどん弾いたらいいのよ』と言われる力強い一言にハッとしました」といった声が寄せられました。

（絹田朋子・記）



ディスカッションの様子

アウトリーチ・海外通信

南カリフォルニア大学

ミトリ・センターのサマーセミナー

絹田 朋子

南カリフォルニア大学のソレント音楽学校に新設された五嶋みどりコミュニティ・エンゲージメント・センターにて六月二十五日から二十七日の三日間にわたり、オーブニングのサマーセミナーが開催されました。全米、そして世界中から二十名あまりの音楽家と音楽家を目指す者達が集まり、地域社会に根付くコンサートを行うためのトレーニングが目的となつた、実践内容の濃いセミナーでした。講師は五嶋みどりさんをはじめ、音楽、演劇、マネジメントと多岐にわたる専門家達が集結し、提示されるアイデアやコメントの多様さ、的確さに驚きと感激の連続でした。

セミナー期間中は朝から晩までみっちり予定が組まれ、講義では「音楽とは何か?」「コミュニティエンゲージメントとは何か?」というような根本的な問題を提示され、参加者全員がそれぞれの意見を出し合ったり、

コンサートのビデオを見ながら分析をしたりしました。また、演劇の要素を取り入れたクラスでは、体全体、そしてそれを取り巻く空気全体をコントロールし、舞台上で表現する方法など、音楽を聴衆に伝える上でとても重要な要素を知る事ができました。

今回のセミナーで何よりも大変だった事は、毎日出されるプレゼンテーション課題でした。一日目の課題は、五、六人ずつのグループに分かれ実際のコンサートを想定し、演奏と演出方法を一晚で作りに上げることでした。二日目は別のグループを作り、「数日後に控えたオーケストラのコンサート」の為、四十五分間で生徒達にオーケストラを楽しみに待てる様な前振りコンサートを考え、その中から、十分間のプレゼンテーションというものでした。どちらの課題も会ったばかりのパートナーと短時間のうちに意見をまとめることがとても難しかったです。しかし、難しいだけでなく、他の人と協力する事によって自分では思いつかないプログラムを作る事ができた時には感激も大きいように感じました。今回が五嶋みどりさんにとつても初めての試みだったこのセミナーですが、とても有意義で内容の濃いもの

でした。参加者同士もハードスケジュールを共に過ごす事により、短期間にもかかわらず、とても仲良くなる事ができました。



クラスメイトたちと

「教育アウトリーチ協会」第一回総会 (ニューヨーク)に参加して

津上 智実

二〇〇七年一月十一日(木)にニューヨークのジュリアード音楽院で「音楽院ならびに音楽大学における教育アウトリーチ協会」第一回年次総会(The First Annual Conference of the Consortium for Educational Outreach at Conservatories and Schools of Music)が開かれ、十二の音楽大学ならびに音楽院からアウトリーチの担当者十六人が集まりました。

た。これは昨年六月九日にニューヨークとボストンのアウトリーチ担当者がボストンで交流の場を持ったのをきっかけに、半年の準備期間を経て最初の公式会議として実現したものです。実はこれには女学院も無縁ではなく、昨年六月の交流会に「二〇〇八年初夏に日本で国際会議ができないか」という提案を(マンハッタン音楽院のレベッカ・チャルノウ氏を介して)行ったところ、日本までの旅費が準備できないので、むしろニューヨークで集まる方が現実的との返事が返ってきました。

参加校はアメリカから十一校(別表の参加校一覧を参照)と日本から一校(神戸女学院大学)で、アメリカのアウトリーチの状況を概観するよい機会となりました。最も充実しているのはジュリアード音楽院(スタッフ八人、奨学金つき教育アウトリーチ・プログラム八種、年間四十五カ所で百五十回のコミュニティ・コンサート)とマンハッタン音楽院(スタッフ六人、オペラ/オペラと音楽劇/ジャズを三分野でレジデンシー・プログラムを展開、地域でのコンサート多数)で、午前中はこの二校の発表と質疑応答に終始しました。昼食のサンドイッチ

をつまみながら他校の発表が続けられました。地域の八十五団体とパートナーシップを組んで年間三百ほどのプログラムを実現しているニューヨークランド音楽院、週一日勤務の非常勤のスタッフが年間三十回ほどのアウトリーチをこなしているカーチス音楽大学、修了演奏の前に少なくとも地域の二カ所での演奏を課しているイェール音楽院、写真入りのニューズレターを定期発行しているピーボディー音楽院、昨年六月にミドリ・センターを設立した南カリフォルニア大学など、各校の取組はまさに十人十色でした。学内での位置づけ、スタッフの配置と身分、予算、教育とのリンク、単位の有無など大学ごとに違いと特徴があり、さまざま可能性があること、同時にそれぞれ問題を抱えながらも使命感をもって実践していることが実感できて勇気を与えられました。

ちなみにパーチェス音楽大学からは学長と副学長が参加し、地域でのコンサートなどを活発に行っているのに、それがアウトリーチとして目に見える形になっていないので、これからすぐにも形にしたいと熱心に議論に加わっていました。また、ジュリアー

ド音楽院とマンハッタン音楽院がプログラムの充実に伴って新規職員を採用しているのも印象的でした。

神戸女学院の発表では、アウトリーチ活動の紹介に加えて、アメリカと日本の公教育における音楽教育のあり方の違いを示した上で(日本の充実振りに拍手が起りました)、アウトリーチが学生にもたらす教育的な効果と意義を論じました。用意していた英文の配布資料ともども好評で、来た甲斐があったと思いました。

今後、次の総会を開くのに加えて、メーリング・リストを構築して情報交換を計っていくこと、グループでの勉強会を持つこと、ニュースレターを発行することなどを目指すことになりました。これがさらに大きくなること祈りたいと思います。

参加校一覧 (および参加人数)

- Kobe College (1)
- Curtis Institute of Music (1)
- North Carolina School of the Arts (1)
- Purchase College Conserv. of Music (2)
- Peabody Institute of Music (1)
- Yale School of Music (1)
- Manhattan School of Music (2)
- New England Conservatory (1)
- The Juilliard School (3)
- Berklee College of Music (1)
- USC Thornton School of Music (1)
- The Colburn School of Music (1)

履修生紹介

三回生の後期から一年半、「音楽によるアウトリーチ」を履修してきた四回生十一名、一人ひとりからのメッセージです。



海老原ゆかり (声楽)

アウトリーチの授業では本当に良い経験をする事ができました。大変なこともありましたが、全てのことが良い思い出です。楽しむことを忘れずに、良い経験を積み重ねて行ってください。



藤村真代 (ピアノ)

アウトリーチは学校の授業だけでは学べないたくさんを知ることができ、それは何なのか。受講して自分がやってみて初めてわかります。あらゆる貴重な経験ができたことを大変光栄に思います。



今井さつき (フルート)

アウトリーチ活動を通してたくさんの方々と出会うことができ、とても貴重な経験ができました。音楽のもつ力のすごさや音楽の楽しさなどを改めて実感し、「音楽をやっていてよかったなあ」と心から思いました。自分達で創りあげるためとても大変ですが、それだけやり甲斐があります。講義や実習で学んだことは、卒業してからもずっと生かしていけると思います。



川勝さちこ (オルガン)

企画から演奏まで、実際に体験できたので、普通の授業とは違うものが学べました。多くの人に助けられつつ取り組めたことに感謝しています。ありがとうございました！



西村遥子 (ピアノ)

この二年、アウトリーチ活動を通して様々なことを学びました。楽しかったこと、大変だったこと、反省したこと…。全てを含めて、音楽をやっていてよかったと本当に思えます。この二年で学んだことを生かして卒業後も活動していきたいと思っています。



白坂亜紀 (ピアノ)

アウトリーチを通して多くの人と出会い、様々な場所での音楽の可能性を知ることが出来ました。

学生だからといって一個人の演奏家として舞台上立つのだから、甘えはきかないという厳しい面もありますが、だからこそ今の自分に足りないものは何なのか深く考え、仲間たちと音楽観をぶつけ合いながら学んでいけたと思います。



高林保子 (声楽)

アウトリーチは、色々な場所で演奏できるだけでなく、聴衆に語りかけることやリトミックなど様々な事に挑戦できるいい機会なので、先輩の皆さんもどんどんいろいろな事に挑戦してみてください。



谷優似子 (ピアノ)

アウトリーチは色々な面もありますが、その分勉強になることも多くあったと思います。一人ではなく皆さんと触れ合うことで、色んな人達と触れ合うことで、演奏すること、色んなところに行きつと生きていく中で役に立つと思います！



谷田奈央 (声楽)

この授業を履修したことは私にとって一生の宝物となりました。卒業後に自ら演奏の場を探し出す力、新たに発見できた自分の長所、どんなに大変でも投げ出さずやり遂げる根気

と忍耐、そして何よりも演奏できる喜び！私のこの一年半は、アウトリーチ抜きでは語れません。下級生の皆さん、ぜひ履修して演奏できる喜びを感じてください！



上原梨絵（フルート）

一年半アウトリーチ活動に参加できて、とてもよい経験になりました。短期間に多くのプロジェクトがあり色々な経験ができたのはよかったのですが、前期は少し忙しすぎたように思います。一つ一つのプロジェクトにもう少し時間をかけてできればよかったですかなと思いました。でもこの活動を通じて出会えた仲間や人々は私の宝物です。みんなありがとう★



山上綾華（フルート）

いろいろな場所でアウトリーチ活動を行い、人々に音楽を届ける喜びを知ることができました。この貴重な経験を今後の音楽人生に生かせるら、と思います。

～3回生の「音楽によるアウトリーチ」履修生～



- 東瑛子（ヴァイオリン）
- 五反田玲子（ピアノ）
- 今中百合（ピアノ）
- 井上香菜（ピアノ）
- 片岡朗子（フルート）
- 岸田かおり（ピアノ）
- 小林祥子（ピアノ）
- 松本真奈（声楽）
- 森理菜（ピアノ）
- 森下聡子（ピアノ）
- 中須賀真弓（ピアノ）
- 西ヶ谷佳那（ピアノ）
- 奥田敏子（声楽）
- 新宅亜衣（ピアノ）
- 杉原真弓（ピアノ）
- 田中美穂（ピアノ）
- 東城彩香（ヴァイオリン）
- 山田はるか（声楽）
- 山本佳苗（ピアノ）
- 金村麻伊（声楽）

----- お知らせ -----

- 7月7日（土） 子どものための七夕コンサート
- 10月20日（土） 子どものためのスペシャル・コンサート

その他、詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach>



次号（第7号）は、6月発行予定です。
新規送付ご希望の方は、outreach@mail.kobe-c.ac.jp までご連絡ください。

* 子どものためのコンサート・シリーズ *

- 7月1日 「子どものための七夕コンサート」
10月21日 「子どものためのオルガン・コンサート」
12月16日 「子どものためのクリスマス・コンサート」

* アウトリーチ *

- 5月12日 大阪市立総合医療センター
5月26日 兵庫県立こやの里養護学校在宅訪問教育部
7月10日 神戸市立本山第二小学校
8月3日 神戸医療センター
9月7日 神戸市立中央市民病院
10月10日 神戸女学院中学部オルガン・アウトリーチ
10月12日 西宮市立今津幼稚園
10月20日 西宮市立夙川幼稚園
10月23日 西宮市立上ヶ原幼稚園
11月29日 神戸市立中央市民病院
12月14日 神戸医療センター
12月18日 雲雀丘学園小学校
1月31日 西宮市立甲陽園小学校



* 長期プロジェクト *

- 6月16日 五嶋みどり・養護学校プロジェクト
11月10日 養護学校プロジェクト（第1回）
11月15日 ひよこプロジェクト
11月17日 養護学校プロジェクト（第2回）
12月1日 養護学校プロジェクト（第3回）
2月2日 養護学校プロジェクト（第4回）
2月9日 養護学校プロジェクト（第5回）
2月16日 養護学校プロジェクト（第6回）

2月の養護学校プロジェクト
については、第7号（6月）
でご報告いたします！

「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれず、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪ **小中学校へ**：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪ **病院や美術館へ**：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL&FAX: 0798-51-8584
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

編集後記

今年度も皆さんに支えられ、活動することができました。ありがとうございました！！（早野）

今回は12ページの特大号！この勢いでこれからも活動していきます。（寺澤）

今年度も終わりに近づきました。来年度も実り豊かな一年となりますように！（松川）

多くの実習をこなした4回生、卒業後の活躍が楽しみです。（中村）

どんどん成長していく学生さん…私も成長しないとおいてかれちゃう！！（南）

あつという間の一年間でした。来年度は一体どんなことがおこるのでしょうか！？（絹田）

8ページで始まった通信が、ついに12ページに！これもアウトリーチの成長の軌跡です。（津上）